

東京明生日本語学院 2025年度 自己点検・自己評価チェックリスト

理念・教育目標
〈理念・ミッション〉 夢を抱き日本を訪れる外国人留学生に対し、その夢を実現するために必要となる日本語能力、社会生活に必要な知識・マナーを習得させ、近い将来にむかえる多国籍な人々による共生社会にて、必要とされる人材を育成することを目的とする。 特に、学習者が日本の高等教育機関に進学し、日本で活躍できるよう支援することに重点を置き、日本人と外国人とが共に暮らしやすい社会を作るための一助となることを目指す。
〈教育目標〉 - 日本の高等教育機関への進学を目指す学習者の日本語能力が進学に足るレベルになる。 - 日本社会や日本人との共生を目指し、言語習得のみならず、文化、思想、生活習慣を理解できる。

点検・評価項目		
1. 教育理念・目標		評価
1.1	学校の理念、目的・目標や育成する人材像が明確になっているか	A
1.2	学校の理念、目的・目標は、社会のニーズに合致したものになっているか	A
1.3	学校の理念、目的・目標は達成されているか	B
国際社会の発展に貢献できる人間を育成する理念のもと、校長をまとめ役として、年2回の教職員全体会、年4回の教務会にて、理念・目標、学校の教育的役割の確認を行っている。また、教育の目標とその目標を実現するための細分化された実施項目については、前年度の結果を受けて毎年見直しを図り、学生ニーズの実態に即した内容になるよう努めている。		
2. 学校運営		評価
2.1	理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	A
2.2	組織運営や人事、財務管理に関する規定や意思決定システムが整備されているか	A
2.3	コンプライアンス体制が整備されているか	A
年度事業計画、収支予算計画は年度開始前に策定され、評議員会、理事会にかけられ承認を受けている。事業計画の遂行にあたり必要な組織体制、人事についても確認を行っており、所轄官庁への法令に従った各種届出・申請事項は滞りなく行われるようチェック体制を見直した。		

3. 教育活動		評価
3.1	教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	A
3.2	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	A
3.3	成績評価や進級・修了の判定基準は明確であり、適切に運用されているか	B
3.4	教員の指導能力向上のための取り組みがされているか	A
3.5	教育課程の改善のために取り組みがなされているか	A
学生に対する評価基準や進級条件の事前説明、および通知方法において、理解浸透が不十分な面があった。入学時や各学期のオリエンテーション時に、成績評価や進級・修了の具体的な基準についてより分かりやすく説明する。また、中間報告や個人面談の機会を活かし、学生本人が自身の到達度や課題を正確に把握できる体制を強化する。		
4. 学修成果		評価
4.1	卒業認定のための評価がなされているか	A
4.2	学習レベルの到達評価がされているか	A
4.3	学生の進路を適切に把握しているか	A
卒業判定会議を開催し、成績評価や進級・修了の判定基準に沿った厳格な運用を行っている。学習レベルの到達度試験を随時行い、評価をしている。学生の進路については在学中のみならず、卒業後も連絡を取り適切に把握している。		
5. 学生支援		評価
5.1	学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか	A
5.2	健康管理ができているか	A
5.3	生活指導への支援体制が整備されているか	A
5.4	防災訓練や緊急時における体制が整備されているか	A
クラス担任制を敷いており、学生の相談窓口を明確化している。また、生活指導担当社と担任とで連携を図り、学習、資格外活動、生活の面から学生の留学生生活をサポートしている。在学中2回の健康診断を実施するとともに、医療機関への受診が必要な場合、日本語能力がまだ低い者については職員同行のもと受診や医療機関への案内を行っている。		
6. 教育環境		評価
6.1	施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	A
6.2	教材は適切か	A
6.3	学習効率を図るための環境整備がなされているか	A
各種学校の設置に必要な環境設備は整っている。全教室にインターネット、モニター設備が整っている。教員が必要とする各種メディアを使用した教育が可能となっている。また、教材については認定時に定めた教材を使用し、現状の学生に適した教材で授業を行っている。		
7. 入学者の募集		評価
7.1	入学者の選抜は適切に行われているか	A
7.2	入学者に対し学校の情報は正確に伝えられているか	A
コース別に入学者への案内、選考は適切に行われている。入学者の募集活動は、担当職員が現地で学校の説明会を行うことを中心に実施し、学校の正確な情報周知に努めている。また、現地での選考やオンライン選考等によって、担当職員がこれまでの実績や経験で培ったノウハウを反映し、選考基準を満たす学生を見極めている。		

8. 財務		評価
8.1	中長期的に財務基盤は安定しているか	A
8.2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
8.3	会計監査は行われているか	A
8.4	授業料、教材費の金額は適切か	A
8.5	仲介手数料の金額は適切か	A
8.6	財務状態の公開の体制はできているか	A
中長期的な財務基盤は安定しており、予算・収支計画も妥当なものとなっている。会計監査も適切に実施されている。授業料等の金額も情勢に合った金額を常に見直し、適切な金額になっているといえる。仲介手数料も妥当な金額である。財務状態は学校ホームページの情報公開より、確認できるようになっている。		
9. 法令遵守		評価
9.1	各種関係法令を遵守し適切に運営されているか	A
9.2	個人情報保護のための対策をとっている。	A
9.3	自己点検の実施と改善およびその公開を適切に行っているか	A
各種法令の改定に合わせ、所轄官庁への適切な届出や個人情報保護の対策、相談窓口の運用を滞りなく行っている。2025年度は法令遵守を重点課題として改善を図った。具体的には「著作権」や「ハラスメント防止」をテーマに、事例を交えた実践的な研修形式の教育を教職員へ実施した。 これにより全教職員のコンプライアンス意識が大幅に向上し、当初の目標を達成したため評価を「A」へと引き上げる。今後も毎年6月の自己点検委員会の実施と7月の結果公開を適正に継続し、健全な学校運営の維持に努めていく。		
10. 地域貢献・社会貢献		評価
10.1	施設を活用した社会貢献・地域貢献ができているか	B
10.2	学生のボランティア活動への支援を行っているか	B
10.3	公開講座等の取り組みを行っているか	A
年2回開催するオンライン日本語教員セミナー等の公開講座は、毎回多くの参加者を集め優れた成果を上げている。一方で、学校の施設やリソースを活用した直接的な地域・社会貢献活動においては、まだ具体的な成果が十分とは言えず改善の余地を残している。 また、学生のボランティア活動支援については、前年度の課題を受けて担当者の配置や相談窓口の明確化を行うなど体制の整備が進んだ。 今後は、学生による通学路の定期的な清掃活動の実施や、地域自治体・団体との連携による多様な情報収集を強化する。これらを通じて、学生が地域住民と深く交流し、主体的に社会貢献へ参加できる環境づくりを推進していく。 地域社会に開かれた学校として、より実効性の高い貢献活動を目指し次年度の取り組みを継続する。		
評価方法		
・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。		
・B：「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。		
・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。		